



第21回九州ミッドシニア選手権競技 第36回九州グランドシニア選手権競技

競技報告 (2014/9/10-11)

写真と記事 : M. Kikutake

ミッド(M)シニア、グランド(G)シニアの両九州選手権は11日、福岡県小郡市の小郡カントリー倶楽部(ミッド6575ヤード、グランド6110ヤード=パー72)で最終日の決勝ラウンドが行われ、Mシニアは通算3オーバー、147で回った67歳、上木政章(志摩シーサイド)が、前回覇者で2位の69歳、大川重信(小郡)に2打差をつけて初優勝した。

Gシニアは通算6オーバー、150で並んだ2人によるプレーオフとなったが、1ホール目で74歳の皆吉寿紀(阿蘇東急)が71歳、永野秀男(福岡フェザント)を下し、初優勝を飾った。

上木、皆吉ともに連盟主催競技での初タイトル。

大会は2日間とも好天に恵まれ、絶好のコースコンディションのなかで1打を争う緊迫した試合が展開された。

日本選手権出場資格者はMシニア24人、Gシニア9人

この試合の結果、Mシニアは23位までの23人と、24位タイの2人のうちマッチングスコアカード方式で選ばれた1人の計24人が第21回日本ミッドシニア選手権(11月10~11日、奈良国際GC)、Gシニアは7位までの7人と、8位タイの4人のうちの2人の計9人が第21回日本グランドシニア選手権(11月13~14日、京都府・田辺CC)への出場権を得た。

ミッドシニア 通算3オーバー、147

上木政章 (志摩シーサイド)

初日ただ一人のアンダー71、そして逃げ切りの初V

65歳以上が出場資格(今年12月末現在)のMシニアには各県地区予選を通過した75人(欠場5人)が出場。初日、上木は参加選手中のただ一人のアンダーパー、71をマークして2位に2打差をつけて単独トップ。最終日の決勝ラウンドには48人が進出したが、晴れて硬く引き締まった高速の高麗グリーンにてこずる選手が続出。上木は76とスコアを崩したものの、後続も追いつけず、逃げ切った。

通算6オーバー、150の3位は猿田仁(あつまる阿蘇赤水、66歳)でさらに1打差の4位タイに山中正義(若宮、65歳)、大田実角(グリーンヒル、65歳)、楠元利夫(都城母智丘、65歳)、真鍋高光(大博多、66歳)、吉武義紹(日の隈、65歳)の5人が並んだ。

「自分でもよく粘った」

コースを攻略した上木政章

「ミッドシニアにしては距離は長いし、厳しいコース設定だったけど、自分でもよく粘ったと思います」。シニアの試合では上位に顔を出すことが多く、実力派として知られた存在ではあったが、初日のトップを譲らず逃げ切って獲得した連盟



主催競技の初タイトル。試合を振り返ってもらくと、こう言って流れる汗を拭いた。

インスタートの出だし、13番でボギーが先行。15番パーディーで取り返したものの、16番から3連続ボギー。「グリーンが硬いし、速い。差が出るのはショートゲーム。ショートアイアン、アプローチに気を使った」という。それが功を奏したか、後半は手堅く1パーディー、2ボギーとまとめた。

これまで、日本アマに1回、日本シニアに5回のほか九州オープン6回などの出場歴を持っている。来週の17日からは日本スポーツマスターズ埼玉大会のゴルフ競技に福岡県代表で出場する。

そして、日本ミッドシニア選手権。実力派が多い九州を制しての出場。「そうなんです。九州代表は注目される。責任があるし、練習して頑張ってきたい」と力を込めた上木だった。

グランドシニア 通算6オーバー、150

皆吉寿紀（阿蘇東急）

初日エージシュート達成

プレーオフで永野秀男（福岡フェザント）を下しての初V



70歳以上のGシニアには83人（欠場1人）が出場。初日は谷脇億明（皐月、70歳）がイーブンパーの72で2位に1打差をつけて単独首位に立った。しかし、5打差の77までに14人がひしめく混戦模様。53人が進出した最終日決勝ラウンドは、初日に73のエージシュートで2位タイにつけていた皆吉がこの日77で、75のベストスコアタイで回った永野と150で並び、プレーオフにもつれ込んでいた。

1打差の3位タイは浜元良夫（沖縄、72歳）、宅間正州（筑紫ヶ丘、69歳）、雨郡滋（佐賀クラシック、71歳）の3人。さらに2打差の6位は牧忠徳（八代、71歳）だった。前回優勝の四方田真雄（佐賀、72歳）は今大会不調で予選落。

「まだまだ上手になりたい」

向上心あふれる皆吉

年齢的にはグランドシニアのカテゴリーだが、昨年まではその前の世代のミッドシニアに出ており、だから今年が初出場。「何とか、ラッキー。まだ実感わかない」というのが第一声だったが、初出場で得た連盟競技の初タイトルを率直に喜んだ。

「高麗の芽はきついし、速い。それでいてピンの位置も厳しかった。グリーンには本当に手こずりました」。首位に1打差2位タイでの最終日。出だしから3連続ボギーを打つなど、決して楽な展開ではなかった。1mくらいのパットを外しまくり、1パーディー、6ボギーの苦労したラウンドだ。だからか、最後まで「パッティングの技術がまだまだ…」と反省の弁ばかりが口をついた。

市役所勤務時代に上司に勧められてクラブを握って40年。定年退職後に、「誰気兼ねすることなく」とゴルフに本腰を入れ、今でも毎日の練習と週2度のラウンド。これまでにエースが2回、アルバトロスも1度経験している。エージシュートはというと、「さて、何回になるか。記録していないもんで」とこだわらない。

そんなゴルフは「追い求めても頂点がないスポーツ。そこが面白い」といい、だから、「もっと上手になりたい」とも言う。

そのためには、（2日間、3日間の）競技に耐えられるだけの体力維持が大事。「そうなんです。やっぱり、歩かんといかんです」。ついカートに乗ってしまうが、「これからはできるだけ、歩きます」とにやりと笑い、小さな声で「宣言」した。

グランドシニア 80 歳以上の部

81 歳の廣重俊一（福岡サンレイク）

76 のエージシュート達成して初優勝

18 ホール（5670 ヤ、パー72）で行われたオープン参加の 80 歳以上の部は 4 オーバー、76 でもとも 81 歳の安藤喜三郎（大分中央）と廣重俊一（福岡サンレイク）の 2 人が並んだが、規定により年長の廣重の優勝となった。前年優勝の赤崎俊美（ゴールデンパーム）は 84 をたたき、11 位だった。

廣重はこの日、2 バーディー、6 ボギーと安定したゴルフ。80 歳の部初出場の安藤も前半 1 バーディーの 35 で回った後の後半、5 ボギーとし 76 で廣重と並んだが、誕生日が 44 日早い廣重が勝利を得た。

年々参加者が増えるグランドシニア。中でも 80 歳以上の部は今大会、過去最多の 48 人（欠場 3 人）が出場した。しかも、難しい高麗の高速グリーンを制して計 5 人がエージシュートを達成。レベルの高さを見つけた。

廣重、安藤以外のエージシュート達成は以下の選手。

▽3 位＝山崎博人（福岡国際、スコア 78、年齢 80 歳）▽4 位＝木村富昌（同、スコア 80、年齢 81 歳）▽21 位＝植杉乾蔵（球磨、スコア 88、年齢 90 歳）



「凝り性」のゴルフでアルバトロス 6 回、 エージシュートは 419 回

練習ラウンドでは結果がよくなかった。だから、本番では「各ホールでいい時のゴルフのイメージをもって組み立てていったのがよかった」と言う。2 バーディー、6 ボギーの 76。419 回目のエージシュートでの初優勝に、「全体的にはうまくいったし、100 点でしょう」と笑った。

元中学教師。三猪高校（福岡県）競泳出身だが、大学は日大水球でアジア大会に出場、銀メダルの実績を持つ。郷里で教師になり、30 歳の時友人に誘われてゴルフを始めた。初ラウンドでバーディーがあり、80 台のスコアで回って痛みつきになった。45 歳の時に教師をやめ、スイミングスクールを経営しているが、熱中ゴルフは続き、これまでに驚くことにアルバトロスを 6 回も経験しているという。

自身で、「練習が苦にならないし凝り性」という。自宅庭に打ちっぱなしのネットを張り、グリーンを作った。それだけでない。毎日のスクワット 100 回、腕立て伏せ、背筋、腹筋の強化。「続けないとダメ」。それも、何より「ゴルフのため」と笑う。トレーニングを欠かさず、「植杉（乾蔵）さんの年齢までは頑張りたい」というのが目標だ。

安藤喜三郎（80 歳以上の部初出場も、惜しくも年齢差で優勝を逃す）前半はリラックスできて 1 アンダーだったが、後半は意識したのか力が入った。エージシュートは 414 回目になります。（九州グランドシニアは過去、3 回の優勝歴）年々飛距離が落ちて、フルバックからの競技はきつい。けど、もう一度グランドシニアのタイトルを取りたい。

植杉乾蔵（1213 回目のエージシュート達成も 21 位に終わり）今日は寄せもパットも何もかんもが悪かった。けど、ゴルフができるのがいい。ゴルフ場に来ると元気になります。